

XenosagaI・II - 第十話 灼熱 - Hitze - 下

—

ヨアキム・ミズラヒの研究データが残っているようだ——

『——レアリエー99——実験体——試作型キル——ヴァー——

100——最終形態———M. O. M. O. ——

——製造目的———の———だ———設計を———』
データが破損しているようだ——正しく表示されない——

—

アルベド：——いまさら、なにをしに来た。

キルシュヴァッサー：アルベド、私——

アルベド：連邦の備品となってまで俺から逃れていたお前が、どういう風の吹き回しだ？

キルシュヴァッサー：———

アルベド：ミズラヒにとって、お前はペシェの代償物に過ぎなかった。

あの沈み行く戦艦の中で救った女にとっても、そうだ。

キルシュヴァッサー：———

アルベド：そして、ただの百式としても、艦を沈めたお前は、ただの役立たずだ。

もう、この宇宙のどこにも、お前を必要とする者はいない。——そんな気がしてこないかぁ？

キルシュヴァッサー：———！

アルベド：いいや、そんなことはない！ この俺が、お前を必要としている。お前の存在意義を創ってやる——！

キルシュヴァッサー：———はい。わかりました——

（そう、これでいい——私は——私を必要としてくれる人のために生きる——

それが、私の意志——）

アルベド：ひゃっははは、アニマの器が、お前のことを気に入ったようだ！ 俺と同じにな！

— 

蒼い外套の男： なんだぁ、この反応は？

？？？： （どうやら、E.S.の力を引き出しているらしいな）

蒼い外套の男： 野郎、調子に乗りやがって。すっかりてめえの役割を忘れてやがる——

？？？： （かまうな、帰還しろバージル）

バージル： んだよ、てめえの指図は受けねえ。それに俺の頭の中に話しかけるな、まだ慣れてねえんだ。

？？？： （慣れてもらわねば困る。これを見てもらおう）

バージル： こいつは——へへへ、そういうことかよ。てめえも食べねえ野郎だ。

いいだろう、だが次は勝手させてもらうぜ。

？？？： （——そのつもりだ。）

— 

アルベド： 遅い——待ちくたびれたぞ。楽しいパーティに間に合わないかと思ったよ、ルベド。

Jr.： パーティ？ 今度はなにを思いつきやがった！

シオン： なに——この震動は！

アルベド： この先へ行けばわかるさ。行けなければ——ほんの数百万、墓石と弔辞が必要になる。

まあ、たいしたことじゃない。

Jr.： な、なんだ——そいつは？ おまえがやっているのか——

アルベド： 驚くことはない、これは意志の力——誰もが持っている根元の力さ。

それを単におまえたちが知覚しているに過ぎない。

だが、知覚と痛みは同義なんだぜ。だから感じてくれよ——おまえも——この痛みをさあっ！

【 戦闘 VS アルベド 】

キルシュヴァッサー： ——アルベド！

シオン：（あの子――！）

Jr.：答えろ、アルベド！ なんだってこんな事をする？

おまえにとって、意味のあることじゃねえだろ。

アルベド：意味ならあるさ。これは――ルベド、おまえのためにやってることなんだぜ。

Jr.：俺の――ため――？

アルベド：忘れたのか、ルベド。十四年前のあのとき――おまえが俺たちになにをしたのか。

Jr.：――――！

アルベド：全ての原因は、おまえ――おまえが心を閉ざしたせいで、俺たちの精神連鎖[リンク]は崩れ、
仲間はずっと”歌声”に侵食されていった。

あの恐怖の中へ残された俺たちに、歌声に身を委ねる以外の選択があったと思うか？

思い出せ！ そして省みろ！

Jr.： たしかに俺は――あのとき――

アルベド： ひゃあっはっはっ、認めたな、臆病者！

Jr.： そうさ、怖かったんだよ、本能的にな――

モモ： Jr. さん――

アルベド： そう、おまえは俺たちに対して贖罪しなければならない、その身を以って！

俺は消えていった者たちの代弁者だ。だが――実は、俺は感謝しているんだ、ルベド。

おかげで俺だけはは、道を見つけることができた。――新たな世界へのな！

Jr.： 新たな――世界だって？

アルベド： 俺の目的はそれだけ――シンプルなものさ、だろ。

Jr.： わけわかんねーぞ、てめえ――

アルベド： くっくくく、最初は半信半疑だった。――だがついさっき、それを確信へと至らしめる体験をさせてもらった――

これは、それを確かめる為の余興だよ！ 精々楽しませてくれ！！

シオン： A.G.W.S.？ こんな巨大な――！

ケイオス： 違う、これは――E.S. だ！

アルベド： ほう、貴様、E.S. を知っているか。

ケイオス： ―――――

アルベド： さあ、キルシュヴァッサーよ、お前の役割を創ってやろう！

シオン：（あの子は――！）

ねえ、応えて！ あなたさっき――私の名前を呼んでくれたよね！

キルシュヴァッサー：――――

アルベド：さあ、アニマの器に食われて、俺のために生きてくれ――永遠に！ キルシュヴァッサー！

シオン：もしかしたら、あなたは――ヴォークリンデで会った――

アイ！

キルシュヴァッサー：ありがとう、シオン――でも、もうそれは私の名前じゃ、ない――

シオン：どうして！

キルシュヴァッサー：私の名前は、キルシュヴァッサー。私の居場所は、アルベドが創ってくれた――

私は、アニマの器とともに、ずっとアルベドの隣にいるの――

シオン：待って、アイ！

キルシュヴァッサー：ありがとう、シオン。さようなら――――

シオン：アイ――――っ！

⇒ [サブストーリー7：キルシュ篇](#)

ケイオス：アニマの器をそんなことに――！

アルベド：さあ、キルシュヴァッサーの意志の力、存分に味わってくれよ！

【 戦闘 VS E.S. シメオン 】

アルベド：ひゃっははは、お前たちの意志の力、その程度か――！

ケイオス：（ダメだ、E.S. に勝つには――）

アルベド：さあ、最期のあがきを見せてしろ！ ひゃあっははははっ！

なにいいっ！

???：ルベド、こいつの相手はまかせてもらおう。お前たちは動力炉を破壊しろ。

Jr.：その声――――

アルベド：シメオンと互角に渡り合うとは、ほう、その機体もE.S. か――

???：悪いが、第二ミルチアを好きにさせるわけにはいかん。

む――！

アルベド：くっ、アニマの器の共振だとお。動けシメオン、動けっ！

???：行けっ、ルベド、ケイオス！ 時間がない！

Jr.： お、おう！

ケイオス： 行こう、みんな！

シオン： （アイー—これが、こんなのが、あなたの意志だったの—？）

—

シオン： な、なに、これ—

Jr.： 野郎—グノーシスを、動力炉と融合させたのか—！

KOS-MOS： シオン、現在、天の車は射線軸を第二ミルチア首都へ指向させつつあります。

有余は 300 秒もありません。

シオン： わかった、全力で破壊するわよ。

ケイオス： みんな、気をつけて！ あれはもう、ただの機械じゃない。

シオン： わかってる、いくわよ、KOS-MOS！

KOS-MOS： 了解しました。全戦闘システム、フルモードで対処します。

【 戦闘 VS ソフィ・ピステス 】

シオン： 爆発に巻き込まれるわ。はやくこのエリアから脱出しましょう。

ジギー： なんだ、この振動は—

モモ： 誘爆—？

ケイオス： 違う、ごくわずかだけど、一定方向へのベクトルを感じる。

KOS-MOS： シオン、天の車の推進ユニットの点火を確認しました。第二ミルチアへの降下を始めています。

アルベド： さあ、見せてもらおうか、おまえたちの力—

シオン： 本当なの、KOS-MOS！？

KOS-MOS： はい、現在の軌道要素のまま降下し続けると、約 8 分後に大気圏に突入します。

ジギー： 最初から仕掛けられていたようだな。

Jr.： アルベドの野郎、次から次へとムカツクこと企みやがって—

シオン：なんとかしないと――こんな大質量の物体が、突入速度で到着したら、第二ミルチアは――

KOS-MOS：現在の突入角度から計算して、本プラントを約 28000 の部位に分ければ――

その 99.6%が到着までに燃え尽きます。

シオン：各部位のデタッチの方法は？

モモ：待ってください、いま、モモに残ってる記録を検索します。

制御室――プラントのデタッチは第 43 層の制御室で制御できます。

ケイオス：急ごう、時間がない。

制御室

モモ：そんな――

ジギー：なにか問題か？

モモ：システムの始動から、全部位を解放するまでのタイムリミットが 1 分しかありません。

これじゃあ――私たち、エルザまでたどり着けません。

ジギー：ここ以外に、制御できる場所はないのか？――遠隔操作は？

モモ：無理です。システムの特長上、ここ以外の操作は受け付けられないようになっているんです。

Jr.：ちっくしょう――到着を阻止するにはこいつと心中するしかないってのか。

シオン：他に方法は？ なにかあるはずよ、きつとなにか――

モモ：だめです、何度も検索したけど、ここで実行する以外、方法がありません――！

KOS-MOS：――先に向かってください。

シオン：なに、KOS-MOS？

KOS-MOS：シオン――あなた方は先にエルザへ向かってください。私が残って、プラントのデタッチを実行します。

シオン：ちょっと待って、残るって――

KOS-MOS：あとわずか、プラントは大気圏への突入を開始します。

燃尽限界高度に達するまで、4 分 28 秒しかありません。急いでください。

シオン：でも――！

KOS-MOS：自己保存機能は正常です。私もこのプラントと共に心中する予定はありません。

ご心配なく、私の移動速度ならば 1 分でエルザまでたどり着けます。

ジギー：いいのか？

KOS-MOS：はい、それがもっとも成功率の高い選択です。

ジギー：わかった。――行くぞ、シオン。

シオン： でも――

Jr.： 大丈夫、KOS-MOS を信じろ。必ず追いつくって、だからはやく！

モモ： シオンさん――

ケイオス： シオン！

シオン： KOS-MOS、必ず戻ってくるのよ。いい、必ずよ。

KOS-MOS： 了解しました。

エルザ 

Jr.： ー船長！

マッシューズ： ちび旦那、なんすかこの揺れは？ 外じゃ一体なにが――

Jr.： 天の車は大気圏内に再突入している最中。このままだといずれ地表に到着する。

マッシューズ： ええっ！？

Jr.： だからさっき、各ブロックをデタッチした。揺れはそのせいだ、以上！

詳しい説明は後、即刻発進準備！

マッシューズ： 準備って――いますぐ発進するんじゃないんで？

Jr.： KOS-MOS がまだ内部に残っている、来るのを待つ。

マッシューズ： ちょっと待ってくださえ、デタッチしたってんなら、ここだって危ねえんじゃない――

Jr.： んなことは分かってる、けど、待つといたら待つ。

――

シオン： お願い――はやく戻ってきて――KOS-MOS――

――

マッシューズ： な、なんだあつ！

ハマー： 落下してきた構造物が、船尾に激突したっす！

マッシューズ： 被害は！

ハマー： いまんとこ軽微――でもいまんとこっすよぉ！

トニー： 船長、このままじゃ、こっちまでヤバイって！

マシューズ：わーってる、ちび旦那！

Jr.：くっそうーなにやってるーはやくしろ、はやくー

トニー：また当たった、なんとお！

マシューズ：ちび旦那ぁ！

Jr.：ええい、分かった、離岸しろ！

ー

シオン：ー船が動き出した？ そんなー！

ブリッジ、聞こえます？ お願い、戻って船長！ まだ KOS-MOS が中にー

マシューズ『馬鹿こいてんじゃねぇっ！ 巻き込まれてゑのか！ このまま脱出するー』

シオン：だってー！

ネピリム：（落ち着いて、シオンー）

シオン：（ーネピリム？）

ネピリム：（大丈夫、心の目を開いてー）

シオン：（心のー目ー）

ーーー！

船長、左舷前方 400m 先の壁、つけてー！

マシューズ『ああ？』

シオン：いいから急いでー！

マシューズ『急げっておめえー』

トニー『シオン、左舷 400m なんだな。』

シオン：トニーさん！

マシューズ『お、おいトニー！』

トニー『沈めなきゃいいんでしょ！ ほいさーっ！』

シオン：いまよ、KOS-MOS！

KOS-MOS！

はあ、はあ、はあー

もうー少しはダイエットしなさいよ。

KOS-MOS：――――

シオン：――よかった。

――

トニー：抜けるぜえ！ うおおおおおっ！

――

ジギー：様子がおかしいーブリッジへ行くぞ。

――

マシューズ：あんだ、聞こえねえぞっ。

アレン：だから、進入角度が深すぎるんですって！

マシューズ：立て直せねえか！

トニー：だめだ、船体のコントロール不能ー

ハマー：んな馬鹿な、航行機能自体は正常なんすよ！

トニー：破片の直撃で、アポジと突入バランサーがいかれたんだ。

ロジカルドライブのベクトルをいま以上、変えられねえ。

マシューズ：馬鹿野郎、泣き言言ってねえでなんとかしろい！ 燃えつきてえのか！！

ハマー：船外温度、シールドの限界値を突破！

――

ネピリム：（――あなたはどうするの？）

ケイオス：――――

君が――待って！

KOS-MOS：あなたの傷みを――私に下さいー

ケイオス：（――――！）

――

ハマー：後部ハッチ開放！

マシューズ：どこの馬鹿だ、こんなときに！ 船内から燃やす気か？

シオン： まさかっ！

KOS-MOS『————シオン。』

シオン： KOS-MOS、あなた、船外に！？

KOS-MOS『はい、これより私のエネルギーフィールドでエルザを保護します。

その間に船体を立て直してください、シオン。』

シオン： 無茶言わないで！ その躯体で何ができるっていうの！？

KOS-MOS『大丈夫です、試算の結果——

1分20秒間現状を維持することによって、エルザは助かります。』

シオン： そんなことをしたら、あなたが燃えつきてしまうわ！ 馬鹿な真似はやめて！

KOS-MOS『お役に立てれば幸いです。』

ハマー： 外部カメラ損壊！

シオン： KOS-MOS ーっ！！

—

ケイオス： —————

—

シオン： お願い KOS-MOS、もうやめて！

KOS-MOS っ！

マシューズ： 助かったーのか。

シオン： KOS-MOS——ううっ——

アレン： 主任——

シオン： （KOS-MOS、KOS-MOS、KOS-MOS、KOS-MOS、KOS-MOS———）

マシューズ： —————

ん？ いま見えたのは——

おい、ハマー！ 船首サブカメラ、つなげ！

ハマー： りょ、了解。

アレン： ああっ、主任！ モニター見てください、モニター！

シオン： ーーーー？

ーーーーああっ。

KOS-MOSーーーー

ー

KOS-MOS： ー任務完了しました、シオン。

シオン： ーーーーー

おかえりなさい。